

普及活動情勢報告（平成 30 年 11 月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

光合成を高める根域管理とは！ ～須崎地区環境制御技術講演会を開催～



講演会の様子

11月7日、J A土佐くろしおで、環境制御技術講演会を開催し、生産者・関係機関合わせて73名が参加しました。

講演会では、日本の養液栽培を早くからリードし、現在、合同会社つくばGBソリューション代表社員として、国内の園芸の発展に大きく貢献されている池田英男氏を招き、「さらなる増収のための根域管理」のテーマで講演していただきました。

参加者からは光合成を促すための気流に関する質問などがあり、光合成を基本とした、データ農業の重要性を理解していただくことができました。

農業改良普及課では、環境制御技術の普及による所得向上を目指し、講習会等で技術の普及を支援します。

ニラ安定生産のための害虫防除について ～出荷始め総会～



出荷始め総会の様子

11月16日、JA土佐くろしおのニラ生産者33名を対象に、出荷始め総会が開催されました。

農業改良普及課からは、ネギアザミウマとヨトウ類の防除対策について説明を行いました。ハスモンヨトウについては10月5日付で病害虫防除所より注意報が発令され、管内でもヨトウ類の発生が平年より多く見られており、被害軽減のためにこの時期の薬剤防除を徹底することを周知しました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力してニラ安定生産のための支援を行っていきます。

栽培技術の省力化を目指して ～サヤインゲン現地検討会の開催～



現地検討会の様子

10月23日、中土佐町と須崎市の2つの会場でサヤインゲン現地検討会を行い、J A土佐くろしおインゲン部会の生産者15人が参加しました。

農業改良普及課からは、今後の栽培管理と31園芸年度の試験の内容（1条植え・天敵利用）について説明しました。

生産者からは、病害虫防除に関する質問が多くあり、天敵の利用にも興味を持っているようでした。また生産者同士で、会場のインゲンの生育状況を見て、「どうしたら葉が焼けないか。」等と情報交換していました。

農業改良普及課は、今後もJ Aと協力して巡回指導等により、栽培を支援していきます。

I P M技術の確立を目指して！～クジャクアスター現地調査報告会の開催～



報告会の様子

11月2日、農業改良普及課では、農業技術センターと協力して、クジャクアスターのI P M技術の現地調査結果の報告会を開催しました。

クジャクアスターでは初めての天敵を利用した防除効果の調査でしたので、農家は熱心に耳を傾け、効果的な天敵の使用方法などの質問をしていました。

今年度の調査では一定の効果が認められたところですが、農業改良普及課では、引き続き農業技術センターと協力して、実証を重ねクジャクアスターでのI P M技術の確立を目指していきます。

大野見米のブランド化を目指して！～大野見しんまいフェスタでP Rを支援～



食べ比べコーナーの様子

10月21日、大野見しんまいフェスタにおいて大野見エコロジーファーマーズが大野見米のP R・食べ比べ・販売のコーナーを設け、農業改良普及課も支援を行いました。

食べ比べコーナーでは、県立大学C O M E ☆ R I S Hの協力で、大野見産の“ヒノヒカリ”と“にこまる”の2種類を用意し、品種名をお伝えした上で来場者に食べ比べをしていただき、品種による食味の違いと、大野見米の美味しさを知っていただきました。

「どっちも美味しいけど、こっちが好き」と、消費者が自分の好みの品種の知っていただく機会になるとともに、生産者としてお客様と直接触れ合うことで、更なる品質向上に意欲がわいたようです。

農業改良普及課は、今後も大野見エコロジーファーマーズの取り組みと大野見米のブランド化を支援していきます。

中山間地の園芸農業のコストを下げたい！～地元の竹を用いた地産ハウスの試験展示～



竹ハウスの建設の様子

中山間地で園芸を維持するためには、定年帰農者等にも広く参加してもらう必要があります。また、安定生産のためには、雨除け栽培が必須であることから、関係機関の協力を得て、西土佐地区で普及しつつある低コスト簡易ハウスの検討を開始しました。更に秋からは、梶原町で行う有望品目検討のための実証ほの一部に、竹を用いた超低コストハウスも展示設置することにしました。10月19日、所有者の理解を得て近くで伐採した竹を用い、職員数人で建設していたところ、近隣農家も飛び入りで参加し、その構造を熱心に観察していました。今後、農業改良普及課ではこれらのハウスの弱点等も検討し、より実用的なものに発展させていきたいと考えています。

養液栽培の排水処理対策について～養液栽培の循環及び排水処理システム現地説明会～



現地説明会の様子

11月14日、循環及び排水処理システムのメーカーによる現地説明会が当農業改良普及課管内で開催され、管内及び県内の養液ミョウガ栽培農家ら約45名の参加がありました。

処理方法の違う2社の循環システムや排水処理システムを設置している現地3箇所でそれぞれメーカーより説明を受けました。参加者からは「EC制御で循環して今まで問題はなかったか?」「ランニングコストは?」など多くの質問が出されました。

農業改良普及課では、県内、最大の養液栽培産地として、今後も適切な排水処理対策を支援していきます。

平成 31 園芸年度も頑張りましょう！！ ～ハウスししとう部会出荷始め総会を開催～



黒枯病対策を説明する様子

11 月 13 日、J A 土佐くろしおハウスししとう部会は、促成シシトウ生産者に部会活動や市場状況の周知を目的に、出荷始め総会を開催し、生産者 26 名の参加がありました。

JA 販売担当者、園芸連職員、大阪・東京市場から、部会活動や市況についての報告がなされ、J A 営農指導員と農業改良普及課から、ガイドライン準拠県版 G A P の点検推進や、実証ほ等の栽培管理状況の報告を行いました。生産者からは、「販売市況だけで無く販売方法はどのようにしているのか。」「加温機による湿度制御をもっと詳しく教えて欲しい。」等の意見・質問がありました。

農業改良普及課では、シシトウの増収に向けた手法について、今後も JA と協力して取り組みを進めていきます。

ユズの安定生産と品質の均質化を目指して！ ～ユズ目慣らし会～



目慣らし会の様子

10 月 22 日、J A 津野山のユズ生産者 64 名を対象に、目慣らし会が開催されました。

まず J A が出荷上の規格について、出席者に実物を見てもらいながら説明しました。農業改良普及課からは、国と県が目標とする 2020 年までに全園芸品目でガイドライン準拠以上の G A P を実施する方針について説明しました。また、会場で収穫労力が不足している人がいるかどうかを確認し、1 名の方をシルバー人材センターに紹介しました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力してユズ安定生産のための支援を行っていきます。

経営管理の関心と力を高めましょう！ ～はちきん農業大学を開催～



はちきん農業大学の様子

10 月 29 日と 11 月 19 日に須崎地区はちきん農業大学として 2 回の経営セミナーを J A 土佐くろしお本所で開催しました。

今回のセミナーでは、記帳代行等の仕組みを理解し、経営改善にどのように生かしていくかという視点で、その基礎となる複式簿記を基礎から学ぶとともに、青色申告の有利性、消費税の軽減税率、などについても解説していただき、「難しかったが、期待した内容だった」などの声や、「軽減税率についてはもう一度聞きたい」などの感想が聞かれました。

農業改良普及課では、第 3 回経営セミナーとして経営改善に向け他講義や農業者年金などの情報提供を行い、J A 等とも連携しながら、経営管理についての関心や力を高めていただけるように支援を行っていきます。